

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1491600019	事業の開始年月日	平成21年4月1日
		指定年月日	平成21年4月1日
法人名	医療法人 聖和会		
事業所名	グループホーム さくら愛川		
所在地	(〒243-0307) 神奈川県愛甲郡愛川町半原340		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員 宿泊定員	名 名
		定員計	名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	R5.2	評価結果 市町村受理日	令和5年5月30日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>医療法人聖和会が設置主体となり、後藤整形外科を母体に施設運営を行っている。 また、法人全体の社会資源を有効活用する事により、ご利用者様のADL向上に特化したグループホーム運営を行っている。</p> <p>具体的には、医師や看護師の支援やリハビリスタッフ・管理栄養士と常に情報交換出来る体制を整え職員相互の技術向上とご利用者様の安心・安全な生活基盤を整えることに主眼を置き、日々のサービス向上を全職員一丸となり努めている。</p>

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年3月15日	評価機関 評価決定日	令和5年5月22日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>【事業所の概要】 事業所は、小田急小田原線本厚木駅からバスで35分、バス停から徒歩1分の緩やかな山間の自然豊かな場所に平成21年4月に開設した、鉄筋コンクリート造りの2階建てのグループホームである。グループホームの他、整形外科、介護老人保健施設や居宅介護支援など多くの医療・福祉事業を展開している医療法人が運営している。</p> <p>【理念・運営方針に基づくケアの実践】 事業所は、「1、親しみやすく笑顔で接します。2、自立を妨げず個人を尊重します。3、のびのびとした生活を送れるようにサポートします。4、家庭的な雰囲気を作ります。5、安心できる環境を提供します。6、地域との関わりを大切にします」という理念を掲げている。また、理念の他、運営方針として「『ゆっくり』『いっしょに』『楽しみながら』一人ひとりのその人らしさを大切にした生活を送る」を掲げている。</p> <p>職員は、要介護度が1～5と様々であり、車椅子の利用・食事介助の有無など、利用者の身体機能などが異なる中、利用者に合うことを探して、できることをやってもらうなど「その人らしい生活」ができるよう支援している。また、家のような環境を作り安心して生活してもらうよう努めるなど、理念・運営方針に基づいたケアを実践している。</p> <p>【職員の育成】 法人は、新人、経験5年目以上、共通など受講対象者を明確にした年間研修計画を策定して、計画的な人材育成を行っている。研修は、オンライン研修で1か月から1年間の受講期間を設けて、各々が受講しやすいよう工夫している。研修の内容は、リーダーシップ、ハラスメント、メンタルヘルス、身体拘束の排除、虐待防止、認知症、排泄・入浴介助、緊急時対応などの多岐にわたるテーマで実施し、職員は、計画的に受講している。また、事業所では、外部研修として資格取得に関する研修などの受講を奨励している。今年度は、介護支援専門員の更新研修の受講に、町の「介護職員等キャリアアップ支援事業費補助金」制度を活用するなど、職員の育成に取り組んでいる。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその人らしく暮らし続ける事が出来るような理念を作成。職員が目につくよう事務所入口に掲示している	開設時に職員が話し合って策定した「親しみやすく笑顔で接します」「自立を妨げず個人を尊重します」「家庭的な雰囲気を作ります」など6項目からなる事業所の理念は、各フロアに掲示して周知している。また、理念の他、運営方針として「『ゆっくり』『いっしょに』『楽しみながら』一人ひとりのその人らしさを大切に生活を送る」を掲げている。職員は、理念と運営方針に基づいたケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム行事や自治会行事を利用し地域住民の方々との交流を深めていたが、コロナ禍の影響で自治会行事の中止など有り、ホーム行事をメインに行っている	自治会に加入して、回覧板で地域の情報を得ている。散歩の際に、地域住民と挨拶して交流している。また、職員が地域の清掃活動に参加している。従来取り組んでいた、地域のお祭り、避難訓練への参加や車椅子の清掃などのボランティア、中学生の福祉体験事業や高校の福祉学科の実習受け入れなどの地域交流は、コロナ禍のため中止している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に参加いただき、お話する場を設けていたが、コロナ禍の影響により今年度は会議を中止し書面を送付させていただき、グループホームでの入居者様の生活状況を報告している。		

4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>御意見、御提案については、職員間の会議にて報告。今年度はコロナ禍の為、書面を送付し、要望や改善点についてフィードバックをいただくようにしている。</p>	<p>運営推進会議は、家族代表、細野区長、民生委員、愛川町介護者の会代表、地域住民代表、地域包括支援センター職員をメンバーとして開催していたが、コロナ禍のため対面での会議が開催できないため、2か月に1回文書で報告する書面開催としている。会議報告書は、原則メンバーに持参して、説明のうえ情報交換している。メンバーからは、災害時の備蓄品や事業所の設備に関する質問があり、回答している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>電話連絡が主で、施設の状況を報告させて頂いている。担当者からの助言もあり、更なるサービスの向上に取り組むよう努める。</p>	<p>愛川町高齢介護課には、運営推進会議の報告書を持参している他、事故報告や空き状況の報告をしている。また、利用者の要介護認定申請・介護保険負担限度額認定申請の代行の際に、役所を訪問し、電話連絡などで助言や指導を受けている。今年度は、行政から抗原検査キットやマスク、手袋の支給を受けた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的開催される同法人内での研修会で、身体拘束について学ぶ機会を設けている。今後は積極的に外部研修に参加し職員全体で周知できるよう努める。身体拘束者に関しては、ご家族より同意書をいただいているが現在身体拘束者なし。	身体拘束廃止等適正化のための指針を定め、身体拘束ゼロマニュアルを整備し、管理者が法人の安全対策委員会に参加して、身体拘束の適正化に関する話し合いをしている。委員会の内容は、管理者がフロア会議で職員に説明している。職員は、法人の身体拘束排除に関する研修を年2回受講している。委員会や研修では、事例検討や指針・マニュアルの確認の他、離床センサーの使用状況に関する意見交換などを行っている。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的開催される同法人内での研修会で、高齢者虐待防止法等を学ぶ機会を設けている。又、事業所内での言葉使いや虐待につながる可能性のある対応については個別で指導を行う。	虐待防止のための指針を定め、虐待防止に向けた研修を年1回開催している。職員は、研修の他、県の「高齢者虐待防止に係る一斉点検」の自己点検で、心理的虐待や介護放棄なども含めた高齢者虐待防止法等について学んでいる。管理者が法人のサービス向上委員会に参加して、虐待防止に関する話し合いをしている。委員会の内容は、管理者がフロア会議やカンファレンスで職員に説明して、虐待防止に関する意識の向上に繋げている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後外部研修を利用し、学ぶ機会を作り職員に周知させていきたい。			

9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時は、管理者が時間を掛け丁寧に説明を行っている。一方的ではなく疑問や不明な点を確認しながら説明するよう配慮している。</p>		
10	7	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様の御意見については、管理者、職員が1対1で気軽に訴えられるようこころがけている。ご家族面会時には日中の様子等伝え、フロア会議等で職員に報告している。</p>	<p>家族の意見・要望は、従来、ほとんどの家族が参加する事業所の納涼会など行事の際に把握していたが、コロナ禍で中止などの制約を受けているため、主に利用料支払いの為に来訪する際の会話や電話連絡、メールのやり取りで把握している。家族から「利用者が書いた年賀状に、足りないことを加筆して、投函して欲しい」という要望があり、対応した。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議やカンファ時に管理者が出席し、職員の意見を聞く機会を設けており、実行可能なものは即、行っている。	職員の意見・提案は、管理者が、日々の会話や、フロア会議、カンファレンス、個人面談などで把握し、運営に反映している。個人面談は、年3回人事考課を兼ねて実施している。法人の事務長も来訪時に職員の意見を聞いている。フロアごとの行事担当者が、雑祭りやクリスマス会を企画して実施している。職員から、利用者の費用負担軽減の観点から、リハビリパンツやパッドの見直しの提案があり、実施した。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休、有給休暇等、最大限考慮した休みを確保している。又、不定期ではあるが個々の面談を行っており意見が交換できる機会を設けている。	管理者は、職員の努力や成果を法人の管理者会議で報告している。法人では「目標設定シート」に基づく、人事評価制度を採用している。スキルアップ支援策として、介護福祉士などに資格手当の支給を行っている。また、認知症介護実践者研修などの受講は、交通費を法人が負担するなど、職員のモチベーションアップに繋げている。管理者は、職員の心身の状況を、個人面談、健康診断やストレスチェックで把握している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人が開催する研修会に参加し、看護師・理学療法士・作業療法士から指導を受け、職員の技術向上に努めている。	法人は、受講対象者を明確にした年間研修計画を策定して、計画的な人材育成を行っている。研修は、オンライン研修で1か月から1年間の受講期間を設けて、受講しやすいよう工夫している。研修の内容は、リーダーシップ、ハラスメント、メンタルヘルス、身体拘束の排除、虐待防止、認知症、排泄・入浴介助、緊急時対応などの多岐にわたるテーマで実施している。事業所では、外部研修として資格取得に関する研修などの受講を奨励している。	

14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>以前は社会福祉協議会が主催する代表者会議に参加し交流を図ってたが、コロナ禍の為行えていない。管理者が年末年始等に他施設を訪問し施設の状況などの情報を得ている。</p>		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前に必ず御本人様とお会いし、お話を聞く機会を設ける。積極的にコミュニケーションを図り要望や不安な事をまずは聞き入れ、関係作りに努める。ホーム見学も随時対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談については、十分な時間をとって現状の確認、不安な事、要望などを聞き取る。まずは、「聴く」ということを最重要としこころがけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の相談や施設見学は、随時対応させていただく。満床の場合には、他施設の空き状況の確認を行う。同法人（介護保険施設）の入居状況も確認し連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることを存分に発揮する場面や関わりを持つ事を心がけている。その中で職員が教わる事が多くあり、理解し共感できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性を考慮した上で積極的に関与して頂き、面会時には状況報告を行い現状を理解して頂く事を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友好関係が途切れないよう、知人などの面会を歓迎している。要望があれば電話連絡も行えるよう配慮している。	入居時のアセスメントや家族からの情報で、利用者の馴染みの関係を把握している。友人や知人の来訪時には、窓越して面談してもらっている。電話や手紙の取り次ぎ支援や、年賀状の補筆・投函支援なども行っている。家族が持参する、利用者が愛読している週間のテレビの番組表や、馴染みのおやつ、砂糖入りの麦茶や、好みの化粧水、シャンプーなどの取り次ぎも支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮し座席を決めている。又、職員が入居者様の間に入り話題を提供しコミュニケーションが図れるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても御家族にご連絡させていただきご本人の健康状態等の様子をお伺いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位の御意向を把握するよう努めている。「甘いものが食べたい」「ジュースが飲みたい」などのお話されたときは、ご家族にお持ち頂き、提供するなどの対応を行っている。	入居前のアセスメントは、原則、利用者・家族に事業所に来てもらい実施している。また、利用者の当時のケアマネジャーが作成したアセスメント資料や介護計画を参考にしている。職員は、入浴やトイレ、夜間帯などの時間などの1対1になれる時間を大切にして、思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合は、利用者の表情から推測して支援に繋げている。把握した情報は、ケア記録や業務日誌に記載して、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などをご本人、ご家族から聞き取り入居後の生活に活かせるようにしている。又、入居後もご本人やご家族との関わりの中からヒントを得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い身体状況の変化に留意している。言動や表情にも注意し、異変を早期に発見できるよう努めている。又、状態変化が見られた時は記録に残し職員間で情報の共有に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族のご意向を踏まえケアプランに反映している。日々接する中で、本人の思いや希望を把握できるよう努めている。	介護計画は、アセスメントとモニタリングを基にカンファレンスを行い、利用者・家族の要望と医療関係者の意見を反映して作成している。モニタリングは、計画作成担当者が、職員の意見も踏まえて行っている。計画は3か月ごとに見直しているが、状態により随時	

				見直している。見直した計画は、変更内容をフロアノートに記載して、職員に周知している。職員は、ケア記録に個別支援計画の番号を記載して、計画とケアとの連動を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や業務日誌を職員全体で共有し、日々の支援に対応している。又、気付いた事などはカンファで話し合い介護計画に繋げる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科衛生士に週1度訪問して頂き口腔ケアをして頂く。居宅療養管理指導で薬剤師の訪問を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティア、高校生の現場実習、中学生の職場体験の受け入れを行っていたが、コロナ禍のため休止している。 終息し次第、再開させたい。			
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と同法人医師の2通りで対応している。毎月1回法人の医師が訪問。	利用者のほとんどが2つの協力医療機関のうち、系列の医療機関をかかりつけ医として、月1回の訪問診療を受診している。もう1つの協力医療機関と、家族が希望する他の医療機関をかかりつけ医とする利用者は1名ずつの計2名がおり、それぞれ家族が付き添い通院している。歯科は、希望者が協力医療機関と契約して、必要に応じて訪問診療を受診している。訪問診療や通院の受診情報は、ケア記録や業務日誌に記録して、職員間で情報共有している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護士とで随時連携を図り相談・助言・対応を気軽に行えている。24時間支援体制の下、指示を仰げる体制が築けている。			

32	<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>協力医療機関のソーシャルワーカーと連絡を行い、情報交換に努めている。入院時は定期的に病院に電話連絡を行い情報交換を行っている。</p>		
----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた対応は入居時に重要事項に則り説明している。事業所として出来る範囲を説明し、御本人、御家族に納得して頂いている。又、終末期の状況に応じて職員間で話し合いを行うよう努める。	入居時に「重度化した場合における対応・終末期（看取り）に係る指針」を利用者・家族などに説明し、同意書を取り交わしている。指針には、事業所での看取り介護の具体的支援内容として「同一法人の介護老人保健施設と連携し、同施設での看取りも検討する」旨を明記してあり、説明して理解を得ている。看取りの希望があれば、対応することとしているが、開設以来、看取りの実績はない。職員は、法人の看取り研修を受講している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的開催される同法人内での研修会に参加し、看護師や地域の消防士を招き急変時の対応方法の指導をいただく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回実施。実際に消防署に通報し避難誘導も行う。地域住民の参加もあり、地域防災協定を結んでいる。	事業所は、夜間想定訓練も含め、火災の避難訓練を年2回実施している。地震を想定した訓練は行えていない。また、BCP(事業継続計画)は未策定である。地域の避難場所として事業所の駐車場を提供する防災協定を結んでいるが、従来実施していた、事業所の避難訓練への地域住民の参加は、コロナ禍で中止している。災害用備蓄品はリストを作成し、利用者、職員その他、ボランティア・地域住民分も含めた30人分の食料と飲料水を3日分確保している。	地震が頻発している中、地震想定避難訓練の実施が期待されます。また、BCP(事業継続計画)の策定も期待されます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する言葉使いや挨拶については、十分注意を払うよう努めている。個人情報の取り扱いも同様。	職員は、研修でプライバシー保護について学んでいる。また、入職時に接遇の研修を受けている。利用者の呼称は、名字に「さん」付けを基本としている。職員間の会話の際は、利用者の名前ではなく部屋番号で話している。フロアでケア記録などを記載する際は、周辺に十分配慮して行っている。管理者は、職員の言葉使いなどで、気になったことは個別に都度指導している。個人情報を含む書類は、施錠できるキャビネットなどで保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中から本人の要望などを汲み取り引きだせるよう努めている。出来る限りご本人の選択・決定に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、都度変化する要望に対し出来る限り柔軟に対応できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して頂き、本人の希望に沿った色・髪型にして貰っている。衣類の選択も本人と確認している。		

40	18	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>入居時に食事の嗜好調査を行っている。身体的に無理のない範囲で食事前のテーブル拭きや、お茶配り、下膳を行って頂いている。</p>	<p>ご飯と汁物は、事業所で調理している。副菜は、食材業者の配食サービスを利用している。雛祭りの時はちらし寿司など、行事の際は特別メニューを提供している。コロナ禍のため、利用者に手伝ってもらうことは、テーブル拭き、お茶配りや下膳に限っている。利用者の状況に合わせ、ミキサー・刻み食に対応している。誕生日会には、手作りケーキを提供している。食事レクリエーションで、どら焼きやホットケーキを作り楽しんでいる。</p>	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量を記録に残し、摂取量の少ない入居者様には、その方が好む食品を追加して摂取して頂く。又、同法人の管理栄養士や言語聴覚士との連携を行い助言を頂く		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力を考慮した上で声掛けや介助を行っている。定期的な訪問歯科による診察、口腔ケアを利用し指導も受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をつけ、個々の排泄リズムに合わせ自尊心を傷つけないよう行っている。	支援を受けずにトイレで排泄できる利用者が2名いる。他の利用者は、排泄チェック表で把握した排泄パターンに基づく定時誘導や、利用者の様子や仕草に基づく随時誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。誘導の際は小声で話しかけるなど羞恥心に配慮している。夜間は、定時誘導や睡眠優先など個人の特性に合わせて支援している。病院からの退院時はベッドでの排泄だった利用者が、支援の結果、トイレでの排泄に改善した事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し排泄リズムを職員が把握。適度な運動や水分摂取を心がける。下剤に頼らないよう心がけているが、下剤や浣腸を使用する事もある。		

45	20	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>現状大まかな予定は決まっている。状況に応じて時間を変更したり曜日をずらすことは可能。入浴拒否の強い方は時間をずらす・職員を変えるなど工夫している。</p>	<p>週2回、8時30分から15時の時間帯での入浴を基本としている。浴室は特殊浴となっており、重度の利用者も湯船につかることができる。体調の悪い利用者は、身体状況に応じてシャワー浴や清拭で対応している。利用者は、職員との会話や、柚子湯を楽しんでいる。お気に入りのシャンプーを使用する利用者もいる。また、同性介助にも対応するなど、入浴を楽しめるよう支援している。</p>	
----	----	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて昼寝、就寝等を行っている。就寝時間の決まりもなく自由に過ごされている。定期的に寝具を交換し、温度調整も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服用されている薬の一覧表があり職員が把握するよう努めている。内服後は内服一覧表に捺印している。又、隔週の薬剤師の訪問時には助言・指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、午前と午後にレクリエーションの提供を行っている。 また、無理のない範囲で食事前のテーブル拭き、お茶配りや下膳等を手伝って頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出を控えているが、気持ちや状態に応じ外気浴等を行っている。	天気の良い日には車椅子の利用者も一緒に、事業所の周りを散歩している。玄関前の駐車場に設置した椅子で、外気浴を楽しむことがある。今年度は、車を利用し、花見や宮ヶ瀬ダム紅葉狩りに出かけ、車中から景観を楽しんだ。利用者の外出歴を業務日誌に記載して把握し、利用者の外出に偏りがないようにしている。コロナ禍の為、通院以外の家族との外出は、控えてもらっている。	

50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に個人の所持金は一括保管させていただいている。 買い物を希望された場合、職員が代行し、買い物を行っている。</p>		
----	--	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りのご要望があれば、職員が代行して投函を行う。又、電話もご要望があれば電話を使用していただくことも可能。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に作成した貼り絵や行事の写真を飾っている。又、玄関にはお花を飾っている。	リビングは、大きな窓があり、採光もよく明るい。眩しい時は、カーテンで明るさを調整している。職員が調理中も見守りできるよう、キッチンからの死角をなくす為にミラーを設置している。温度・湿度管理は、エアコンと加湿器で行っている。また、昼寝中や夜間など利用者が少ない時間帯に窓を開けて換気を行っている。リビングの壁には、利用者と職員が作成した季節の貼り絵作品や、誕生日会の写真などを飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファはくつろげるよう配置し、会話を楽しめるスペースとして提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談して使い慣れた家具や御家族の写真など持って来て頂けるよう働きかけている。	居室は、エアコン、照明器具、防災カーテンが備え付けられている。利用者は、タンス、テレビ、仏壇、ぬいぐるみ、家族の写真や、習字などの馴染みの品や思い出の品を持ち込んでいる。また、清掃は、清掃業者が行っている。職員は、居室担当者を中心に、衣替えや備品の整理を行っている。安全対策として、夜間に職員を呼べるように、鈴をベッドに付けている利用者や、離床センサーマットを使用している利用者がある。	

55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下全域には手すりをつけ安全面に考慮している。各居室のネームプレートやトイレの標識もつけている。</p>		
----	--	---	---	--	--

事業所名	グループホームさくら愛川
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中でその人らしく暮らし続ける事が出来るような理念を作成。職員が目につくよう事務所入口に掲示している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム行事や自治会行事を利用し地域住民の方々との交流を深めていたが、コロナ禍の影響で自治会行事の中止など有り、ホーム行事をメインに行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて地域の方に参加いただき、お話する場を設けていたが、コロナ禍の影響により今年度は会議を中止し書面を送付させていただき、グループホームでの入居者様の生活状況を報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	御意見、御提案については、職員間の会議にて報告。今年度はコロナ禍の為、書面を送付し、要望や改善点についてフィードバックをいただくようにしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話連絡が主で、施設の状況を報告させて頂いている。担当者からの助言もあり、更なるサービスの向上に取り組むよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	定期的開催される同法人内での研修会で、身体拘束について学ぶ機会を設けている。今後は積極的に外部研修に参加し職員全体で周知できるよう努める。身体拘束者に関しては、ご家族より同意書をいただいているが現在身体拘束者なし。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的開催される同法人内での研修会で、高齢者虐待防止法等を学ぶ機会を設けている。又、事業所内での言葉使いや虐待につながる可能性のある対応については個別で指導を行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後外部研修を利用し、学ぶ機会を作り職員に周知させていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、管理者が時間を掛け丁寧に説明を行っている。一方的ではなく疑問や不明な点を確認しながら説明するよう配慮している。		

10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の御意見については、管理者、職員が1対1で気軽に訴えられるようこころがけている。ご家族面会時には日中の様子等伝え、フロア会議等で職員に報告している。		
----	---	---	--	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のフロア会議やカンファ時に管理者が出席し、職員の意見を聞く機会を設けており、実行可能なものは即、行っている。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休、有給休暇等、最大限考慮した休みを確保している。又、不定期ではあるが個々の面談を行っており意見が交換できる機会を設けている。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	同法人が開催する研修会に参加し、看護師・理学療法士・作業療法士から指導を受け、職員の技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	以前は社会福祉協議会が主催する代表者会議に参加し交流を図ってたが、コロナ禍の為行えていない。管理者が年末年始等に他施設を訪問し施設の状況などの情報を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前に必ず御本人様とお会いし、お話を聞く機会を設ける。積極的にコミュニケーションを図り要望や不安な事をまずは聞き入れ、関係作りに努める。ホーム見学も随時対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談については、十分な時間をとって現状の確認、不安な事、要望などを聞き取る。まずは、「聴く」ということを最重要としこころがけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望の相談や施設見学は、随時対応させていただく。満床の場合には、他施設の空き状況の確認を行う。同法人（介護保険施設）の入居状況も確認し連携を図る。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来ることを存分に発揮する場面や関わりを持つ事を心がけている。その中で職員が教わる事が多くあり、理解し共感できるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族の関係性を考慮した上で積極的に関与して頂き、面会時には状況報告を行い現状を理解して頂く事を心がけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友好関係が途切れないよう、知人などの面会を歓迎している。要望があれば電話連絡も行えるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性を考慮し座席を決めている。又、職員が入居者様の間に入り話題を提供しコミュニケーションが図れるよう心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても御家族にご連絡させていただきご本人の健康状態等の様子をお伺いしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人本位の御意向を把握するよう努めている。「たまにはカップラーメンが食べたい」等の希望が会ったとき、ご家族にお持ち頂き提供するなどの対応を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などをご本人、ご家族から聞き取り入居後の生活に活かせるようにしている。又、入居後もご本人やご家族との関わりの中からヒントを得られるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックを行い身体状況の変化に留意している。言動や表情にも注意し、異変を早期に発見できるよう努めている。又、状態変化が見られた時は記録に残し職員間で情報の共有に努めている。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や御家族のご意向を踏まえケアプランに反映している。日々接する中で、本人の思いや希望を把握できるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録や業務日誌を職員全体で共有し、日々の支援に対応している。又、気付いた事などはカンファで話し合い介護計画に繋げる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科衛生士に週1度訪問して頂き口腔ケアをして頂く。居宅療養管理指導で薬剤師の訪問を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティア、高校生の現場実習、中学生の職場体験の受け入れを行っていたが、コロナ禍のため休止している。 終息し次第、再開させたい。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と同法人医師の2通りで対応している。毎月1回法人の医師が訪問。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と介護士とで随時連携を図り相談・助言・対応を気軽に行っている。24時間支援体制の下、指示を仰げる体制が築けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のソーシャルワーカーと連絡を行い、情報交換に努めている。入院時は定期的に病院に電話連絡を行い情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に向けた対応は入居時に重要事項に則り説明している。事業所として出来る範囲を説明し、御本人、御家族に納得して頂いている。又、終末期の状況に応じて職員間で話し合いを行うよう努める。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的開催される同法人内での研修会に参加し、看護師や地域の消防士を招き急変時の対応方法の指導をいただく。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回実施。実際に消防署に通報し避難誘導も行う。地域住民の参加もあり、地域防災協定を結んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対する言葉使いや挨拶については、十分注意を払うよう努めている。個人情報の取り扱いも同様。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中から本人の要望などを汲み取り引きだせるよう努めている。出来る限りご本人の選択・決定に沿うよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れは決まっているが、都度変化する要望に対し出来る限り柔軟に対応できるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用して頂き、本人の希望に沿った色・髪型にして貰っている。衣類の選択も本人と確認している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に食事の嗜好調査を行っている。身体的に無理のない範囲で食事前のテーブル拭きや、お茶配り、下膳を行って頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分量を記録に残し、摂取量の少ない入居者様には、その方が好む食品を追加して摂取して頂く。又、同法人の管理栄養士や言語聴覚士との連携を行い助言を頂く		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の能力を考慮した上で声掛けや介助を行っている。定期的な訪問歯科による診察、口腔ケアを利用し指導も受けている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表をつけ、個々の排泄リズムに合わせ自尊心を傷つけないよう行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を利用し排泄リズムを職員が把握。適度な運動や水分摂取を心がける。下剤に頼らないよう心がけているが、下剤や浣腸を使用する事もある。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	現状大まかな予定は決まっている。状況に応じて時間を変更したり曜日をずらすことは可能。入浴拒否の強い方は時間をずらす・職員を変えるなど工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて昼寝、就寝等を行っている。就寝時間の決まりもなく自由に過ごされている。定期的に寝具を交換し、温度調整も配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各個人の服用されている薬の一覧表があり職員が把握するよう努めている。内服後は内服一覧表に捺印している。又、隔週の薬剤師の訪問時には助言・指導を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日、午前と午後にレクリエーションの提供を行っている。 また、無理のない範囲で食事前のテーブル拭き、お茶配りや下膳等を手伝って頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で、外出を控えているが、気持ちや状態に応じ外気浴等を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人の所持金は一括保管させていただいている。 買い物を希望された場合、職員が代行し、買い物を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやり取りのご要望があれば、職員が代行して投函を行う。又、電話もご要望があれば電話を使用していただくことも可能。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様と一緒に作成した貼り絵や行事の写真を飾っている。又、玄関にはお花を飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファはくつろげるよう配置し、会話を楽しめるスペースとして提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人、ご家族と相談して使い慣れた家具や御家族の写真など持って来て頂けるよう働きかけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下全域には手すりをつけ安全面に考慮している。各居室のネームプレートやトイレの標識もつけている。		

目標達成計画



事業所名

グループホームさくら苑

作成日

令和5年5月29日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	防災訓練について年2回の防災訓練を火災想定で行っているが、地震想定での避難訓練を行っていない。	地震想定での訓練実施	来年度、年2回の防災訓練のどちらかで地震想定での訓練を行う	1年以内
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。